

第 21 回対策「みんな合☆総仕上げ模試」

問1 「令和3年版労働経済の分析」(厚生労働省、2021 年)に示された「テレワークの定着に向けた課題について」に関する次の記述のうち、**最も適切なもの**はどれか。

1. テレワークの経験がある労働者の割合を業種別にみると、「製造業」、「卸売小売業」が比較的高い。
2. テレワークを導入、実施していない理由について、約 7 割が「情報セキュリティの確保が難しいから」と回答しており、最も多い。
3. 労働者にテレワークによって感じるメリットについて尋ねたところ、「急な仕事の依頼や余計な会話が減って、担当している業務に集中できる」が最も多い。
4. テレワークの導入の目的について、感染拡大前にテレワークを始めていた企業では、ワーク・ライフ・バランスや生産性の向上を目的としている企業が多い一方、感染拡大を機にテレワークを始めた企業では感染拡大への対応を目的とする企業が多い。

問2 「働く環境の変化に対応できるキャリアコンサルタントに関する報告書」(厚生労働省、2021 年)に示された「キャリアコンサルティングの更なる普及のための施策」に関する次の記述のうち、**最も不適切なもの**はどれか。

1. 人事担当者にキャリアコンサルタント資格取得を促したり、職業能力開発推進者にキャリアコンサルタントの資格保有者を積極的に充てることも、キャリアコンサルティング普及の有効な手段である。
2. キャリア形成サポートセンター事業において、セルフ・キャリアドック導入にあたっての相談支援が無料で行われている。
3. 従業員の自律的なキャリア形成支援について、他の模範となる取組を行っている企業を大臣表彰する、グッドキャリア企業アワード事業の更なる周知や内容の充実も有効である。
4. 年齢階層別にみた場合、若年層と比較して高齢者の方が、キャリアコンサルティング経験が多いという結果を示すデータがあるため、若年層を意識した支援を今まで以上に実践する必要がある。

第 21 回対策「みんな合☆総仕上げ模試」

問3 キャリアに関する諸理論に関する次の記述のうち、**最も適切なもの**はどれか。

1. プレディガーは、ホランドの研究を継承し、ホランドの六角形の領域を 4 つの要素に整理し、ワークタスク・ディメンションにまとめた。
2. ギンズバーグは、職業選択のプロセスを、成長期、探索期、確立期の 3 つに分類した。
3. ティードマンは、認知的不協和理論をキャリア意思決定に応用した。
4. 花田光世は、人生の節目にキャリア・デザインをすることや、その節目と節目の間にはキャリア・ドリフト(流れに身を任せてみること)の重要性を提唱している。

問4 サビカスの理論に関する次の記述のうち、**最も不適切なもの**はどれか。

1. キャリア・アダプタビリティは段階的に、関心、統制、好奇心、自信の 4 つの次元がある。
2. キャリア・ストーリーで語られる真実は、「歴史的眞実」ではなく、個人にとっての眞実、「物語的眞実」である。
3. キャリア・アダプタビリティを向上させることの目的は、自己概念を実現することにあるとした。
4. クライエントの語りにより、自身の過去と決別し、新たな人生計画を持つことができるようになる。

第 21 回対策「みんな☆総仕上げ模試」

問5 クランボルトの理論について、最も不適切なものはどれか。

1. 個人のキャリア意思決定に影響を与える要因の一つに、学習経験をあげている。
2. 計画された偶発性理論では、未決定を望ましい状態と考える。
3. キャリア・アセスメントは、学習を促すためではなく、個人の特性と職業のマッチングをするために用いられる。
4. クランボルトの理論は、バンデューラが提唱した社会的学習理論を基礎にしている。

問6 ハンセンの理論に関する記述のうち、最も適切なものはどれか。

1. 統合的人生設計では人生の4要素を、労働、学習、余暇、自由であるとした。
2. 統合的人生設計における6つの人生課題の一つに、「家庭と仕事の間を結ぶ」ことがある。
3. 統合的人生設計におけるキャリア設計は、仕事や職場での役割に特に焦点を当てている。
4. 統合的人生設計が提示する課題について、人生の各段階において優先順位をつけるべきではない。

第 21 回対策「みんな☆総仕上げ模試」

問7 動機づけ理論に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

1. アルダファの ERG モデルは、達成欲求、権力欲求、親和欲求の3つの次元から構成される。
2. マクレランドは、職場では満足を与える要因(動機づけ要因)と、不満足を与える要因(衛生要因)の2つの要因があるとした。
3. マクレガーは、人間の本性を X 理論と Y 理論の対比で捉え、現代の経営者にとっては Y 理論の方が適切であるとし、個人の目標と企業の目標を適合させることを重視している。
4. マズローの5段階の欲求階層説では、基底層の第1層から第4層を成長欲求、第5層を欠乏欲求としている。

問8 カウンセリングの理論や心理療法の名称とその提唱者、関連する用語に関する次の記述のうち、組み合わせとして最も適切なものはどれか。

1. 國分康孝、コーヒーカップ・モデル、ABC(DE)理論
2. ウォルピ、行動療法、主張訓練法
3. ロジャーズ、来談者中心療法、システムズ・アプローチ
4. フロイト、精神分析、転移・逆転移

第 21 回対策「みんな合☆総仕上げ模試」

問9 アイビィのマイクロカウンセリングに関する次の記述のうち、**最も不適切なもの**はどれか。

1. 積極技法のうち、論理的帰結とは、クライアントの行動によって予測される良い結果、悪い結果について考えるように促すことをいう。
2. 積極技法のうち、自己開示とは、カウンセラーが自分の考えや経験などをクライアントに伝えることをいう。
3. 積極技法のうち、フィードバックとは、クライアントにカウンセラーの考えや情報を伝えることをいう。
4. 積極技法のうち、解釈とは、クライアントの状況を読み取る新しい観点をカウンセラーがクライアントに与えることをいう。

問 10 カウンセリングの技法に関する次の記述のうち、**最も適切なもの**はどれか。

1. 実存療法は、人は自らの責任において自分を作り、生き方を決定出来る存在であるとする実存主義に基づいた療法であり、グラッサーが提唱した。
2. ゲシュタルト療法は、過去にとらわれず、未来を恐れずに「いま、ここ」での気付きを得る方法であり、パールズが創始した。
3. 来談者中心療法は、来談者が本来持っている、自ら成長し自己実現しようとする力に注目し、指示的に行われる。
4. 論理療法は、不適切な行動の除去や適切な行動の学習を行うことで、クライアントの症状や問題行動を改善していく療法である。

第 21 回対策「みんな合☆総仕上げ模試」

問 11 精神分析理論における防衛機制に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

1. 現状が苦しいために、幼少期に戻り快楽原則に浸りたい心理を、抑圧という。
2. 自分の欠点を認めることができず、それを正当化して自他を納得させることを、投影という。
3. 失敗や劣等感を感じたときに、他の分野で成果を出して劣等感を解消するのは、補償である。
4. 社会的には認められないような欲求や衝動を、スポーツや芸術などで発散させることを、反動形成という。

問 12 職業訓練や教育などを行う公的支援制度に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

1. 公共職業訓練のうち、学卒者訓練は高等学校卒業者等を対象とした、通常は 2～5 日間の短期間の訓練である。
2. 求職者支援訓練は、職業能力開発促進法に基づいて行われている。
3. 教育訓練給付金制度は、一般教育訓練給付と専門実践教育訓練給付の二本立てである。
4. 一般の公共職業能力開発施設で訓練を受けることが困難な障害者に対しては、障害者職業能力開発校において職業訓練を実施している。

第 21 回対策「みんな合☆総仕上げ模試」

問 13 「令和 3 年度能力開発基本調査 調査結果の概要」(厚生労働省)に関する次の記述のうち、**最も不適切なもの**はどれか。

1. 仕事をするうえで、自信のある能力・スキルの内容については、正社員では「チームワーク、協調性、周囲との協働力」が最も多い。
2. 向上させたい能力・スキルで最も多いのは、正社員では「マネジメント能力・リーダーシップ」である。
3. 自己啓発の実施方法は、正社員、正社員以外ともに「ラジオ、テレビ、専門書等による自学、自習」が最も多い。
4. 自己啓発における問題点の内訳では、正社員では「仕事が忙しくて自己啓発の余裕がない」が最も多い。

問 14 「令和 3 年度能力開発基本調査 調査結果の概要」(厚生労働省)に関する次の記述のうち、**最も適切なもの**はどれか。

1. 令和 2 年度中にキャリアコンサルティングを受けた者の割合は、労働者全体で約 10%程度である。
2. キャリアに関する相談をする主な組織・機関については、正社員、正社員以外ともに「企業外の独立したキャリアコンサルタント」が最も多い。
3. キャリアコンサルティングが役立ったことの内訳では、正社員、正社員以外ともに「上司・部下の意思疎通が円滑になった」が最も多い。
4. キャリアコンサルタントに相談したい内容は、正社員では「仕事に対する適性・適職(職業の向き不向き)」が最も多い。

第 21 回対策「みんな合☆総仕上げ模試」

問 15 第 11 次職業能力開発基本計画に記されている「全員参加型社会の実現に向けた職業能力開発の推進」に明記されているものはいくつあるか。

- ・非正規雇用労働者の職業能力開発
- ・女性の職業能力開発
- ・若者の職業能力開発
- ・障害者の職業能力開発

1. 1 つ
2. 2 つ
3. 3 つ
4. 4 つ

問 16 社員の賃金制度に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

1. 職務給とは、労働者の職務遂行能力に基づいて決定される賃金である。
2. 職能給とは、職務の難易度や価値の高さに基づいて決定される賃金である。
3. 役割給とは、業績や成果に基づいて決定される賃金である。
4. 属人給とは、年齢や勤続年数に基づいて決定される賃金である。

第 21 回対策「みんな合☆総仕上げ模試」

問 17 「『セルフ・キャリアドック』導入の方針と展開」(厚生労働省、2017 年)に関する次の記述のうち、**最も適切なもの**はどれか。

1. 従業員に対するキャリアコンサルティングの機会の確保は、法律では規定されていない。
2. 面談により把握された組織的・全体的な課題の傾向や、本人の同意に基づき企業へ伝えるべき事項については原則として全体報告書の報告内容になる。
3. 面談実施後に対象従業員へのフォローアップは原則として必要はない。
4. セルフ・キャリアドックの責任者は、キャリアコンサルタントを統括する位置づけを持つため、人事部門から選定するべきである。

問 18 労働時間に関する次の記述のうち、**最も不適切なもの**はどれか。

1. フレックスタイム制は、始業時間と終業時間を社員の選択に委ねる制度である。
2. 裁量労働制には、専門業務型と企画業務型の2つがある。
3. 裁量労働制では、みなし労働時間制が適用されるため、休憩、時間外・休日労働、深夜業の法規制は適用されない。
4. 企画業務型の裁量労働制を適用する社員には、対象業務を遂行するための知識・経験等が求められるが、その条件については、厚生労働省の指針が設けられている。

第 21 回対策「みんな合☆総仕上げ模試」

問 19 「令和 3 年度経済財政白書」に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

1. 我が国では人口が減少する下で、世帯数も減少している。
2. 非正規雇用についている理由として、2020 年に最も多いのは、「正規の職員・従業員の仕事がない」である。
3. 2021 年の前半 6 か月は、雇用形態別にみると、パート・アルバイト等の雇用者数が減少している一方で、正規の雇用者数は増加基調で推移している。
4. 感染拡大後のテレワークの普及について、テレワーク実施率とルーティン(定型)ワークの度合いとの関係では、「ルーティンワークの度合い」が相対的に高いほど、テレワークの実施率が上昇する傾向がある。

問 20 2021 年度の主な雇用指標に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

1. 2021 年度平均の完全失業率は、3%台となった。
2. 2021 年度平均の完全失業者数は、前年度に比べて増加した。
3. 2021 年度平均の有効求人倍率は、1 倍を越えている。
4. 2021 年度平均の有効求人は、前年度比で減少した。

第 21 回対策「みんな☆総仕上げ模試」

問 21 国が行う調査に関する次の記述のうち、**最も不適切なもの**はどれか。

1. 一般職業紹介状況は、ハローワークにおける求人、求職、就職の状況について毎月、厚生労働省が調査公表している。
2. 労働力調査は、就業及び不就業の状態を明らかにするために、毎月、総務省統計局が調査公表している。
3. 賃金構造基本統計調査は、賃金構造の実態を明らかにするため、総務省統計局が 5 年毎に調査公表している。
4. 毎月勤労統計調査は、賃金、労働時間及び雇用の変動を把握するために、厚生労働省が毎月調査公表している。

問 22 就業規則に関する次の記述のうち、**正しいもの**はどれか。

1. 労働基準法では、常時 20 人以上の労働者を雇用する使用者に、就業規則を作成し、それを行政官庁に届け出る義務を課している。
2. 就業規則の作成義務、届出義務に違反した場合には、30 万円以下の罰金が課される。
3. 労働者に不利益な就業規則の変更はいかなる場合でもできない。
4. 就業規則を作成または変更する場合、労働者の過半数を代表する者、もしくは労働者の過半数で組織する労働組合の合意を得なければ、当該就業規則は無効となる。

第 21 回対策「みんな☆総仕上げ模試」

問 23 労働施策推進法(いわゆるパワハラ防止法)に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

1. 法で定めるパワーハラスメント対策について 中小企業には義務付けられていない。
2. 派遣労働者に対しては、派遣元、派遣先の両方の事業主に、パワーハラスメント対策が義務付けられる。
3. 労働施策推進法に違反した場合には、罰金などの罰則がある。
4. 労働施策推進法は、パートやアルバイトなどの有期雇用労働者には適用されない。

問 24 最低賃金法に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

1. 最低賃金には、地域別最低賃金と特定最低賃金の2種類がある。
2. 地域別最低賃金の改定は、地方最低賃金審議会が引上げの目安額を決め、中央最低賃金審議会がこれを参考に引上げ額を決める方法で行われている。
3. 派遣労働者には、派遣元の最低賃金が適用される。
4. 最低賃金の対象となる賃金には、通勤手当や家族手当が含まれる。

第 21 回対策「みんな☆総仕上げ模試」

問 25 社会保険に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

1. 介護保険の第1号被保険者は、40 歳から 64 歳までの医療保険加入者である。
2. 産前産後休業期間および育児・介護休業期間については、事業主の申請により被保険者および事業主ともに厚生年金保険および健康保険の保険料が免除される。
3. 厚生年金保険や健康保険の保険料の算定にあたっては、賞与は除外される。
4. 業務外の傷病により休業した場合、休業 4 日目から、傷病手当金として標準報酬日額の 3 分の 2 に相当する金額が健康保険より支給される。

問 26 「キャリア・パスポート」の様式例と指導上の留意事項(文部科学省)に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

1. 各シートはA4判(両面使用可)に統一し、各学年での蓄積は数ページ(5枚以内)とすること。
2. 大人(家族や教師、地域住民等)が対話的に関わるができるものとする。
3. 2020 年4月より、すべての小学校及び中学校において実施することとする。
4. 個人情報を含むことが想定されるため「キャリア・パスポート」の管理は、原則、学校で行うものとする。

第 21 回対策「みんな合☆総仕上げ模試」

問 27 中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」(平成 23 年)で記された「基礎的・汎用的能力」に関する次の記述のうち、**誤っているものはどれか。**

1. 人間関係形成・社会形成能力
2. 自己理解・自己管理能力
3. 論理的思考能力
4. キャリアプランニング能力

問 28. パニック障害に関する次の記述のうち、**最も不適切なものはどれか。**

1. 動悸やめまい、発汗、窒息感、吐き気、手足の震えといった発作を起こし、そのために生活に支障が出ている状態をパニック障害という。
2. そこへ行くと発作が起きそうな気がして、苦手な場所ができ、その場所を避けるようになることを「広場恐怖」や、「外出恐怖」、「空間恐怖」という。
3. パニック発作をくりかえすうちに、発作のない時も次の発作を恐れるようになり、「今度こそ死んでしまうのでは」といった不安が消えなくなることを「予期不安」という。
4. 治療は投薬が主であり、カウンセリングアプローチがとられることはない。

第 21 回対策「みんな☆総仕上げ模試」

問 29. ストレスチェック制度に関する次の記述のうち、**最も不適切なもの**はどれか。

1. 一般定期健康診断における自他覚症状の有無の検査(問診)を、ストレスチェックに替えることはできない。
2. 人事に関して直接の権限を持つ監督的地位にある者は、ストレスチェック結果の労働者の通知の事務を行うことができない。
3. 常時 50 人以上の労働者を使用する全ての事業者は、毎年 1 回、定期に行うことが義務付けられている。
4. ストレスチェック結果で「医師による面接指導が必要」とされた労働者に対しては、本人の申出の有無に関わらず、面接指導を実施しなければならない。

問 30 ライフステージと発達課題に関する次の記述のうち、**最も適切なもの**はどれか。

1. レビンソンは、発達段階を「人生の四季」にたとえ、特に「成人への過渡期」を重要な時期であるとした。
2. レヴィンは、青年期をむかえた青年たちを「モラトリアム人間」と呼んだ。
3. マーシャは、人生を太陽の動きにたとえ、40 歳を「人生の正午」と呼び、それ以後の中年期を「人生の午後」と呼んだ。
4. 岡本祐子は、中年期や定年退職の時期にアイデンティティが問い直されるとし、アイデンティティがラセン式に発達していくとした。

第 21 回対策「みんな☆総仕上げ模試」

問 31 エリクソンの個体発達分化の図式に関する次の記述のうち、**最も不適切なもの**はどれか。

1. 乳児期における心理社会的危機は、「信頼対不信」である。
2. 学童期における心理社会的危機は、「勤勉性対劣等感」である。
3. 成人期における心理社会的危機は、「同一性対同一性拡散」である。
4. 老年期における心理社会的危機は、「統合性対絶望」である。

問 32 転機の理論に関する次の記述のうち、**最も不適切なもの**はどれか。

1. シュロスバーグは、生涯を通じて経験する転機や変化は、決して予測できるものでも、人生途上で誰しも共通して遭遇するものでもないとした。
2. ニコルソンは、トランジションを「準備→適応→遭遇→安定化」の順序のサイクルが繰り返されるとした。
3. ブリッジスは、まず何かの「終わり」があり、次に「始まり」がある。そしてその間に重要な空白ないしは休養期間が入るとした。
4. ラザラスとフォルクマンは、転機への対処行動には、情動中心の対処と、問題中心の対処があるとした。

第 21 回対策「みんな☆総仕上げ模試」

問 33 「令和 4 年版高齢社会白書」(厚生労働省、令和 4 年)に関する次の記述のうち、**最も不適切なもの**はどれか。

1. 労働力人口総数に占める 65 歳以上の者の割合は 10%を超えており、上昇し続けている。
2. 60 歳代後半(65～69 歳)の就業状況をみると、男性は全体の半数以上が働いている。
3. 従業員 31 人以上の企業約 16 万社のうち、希望者全員が 65 歳以上まで働ける企業の割合は、約 8 割である。
4. 「あなたは、何歳ごろまで収入を伴う仕事をしたいですか」の問いに対して、現在収入のある仕事をしている 60 歳以上の人の回答で最も多いのは、「75 歳くらいまで」である。

問 34 「事業場における治療と仕事の両立支援のためのガイドライン」(厚生労働省)に関する次の記述のうち、**最も不適切なもの**はどれか。

1. 治療と仕事の両立支援は、私傷病である疾病に関わるものであることから、本人から支援を求める申出がなされたことを端緒に取り組むことが基本となる。
2. 症状や治療方法などは個人ごとに大きく異なるため、個人ごとに取りべき対応やその時期等は異なるものであり、個別事例の特性に応じた配慮が必要である。
3. 労働基準法に基づく年次有給休暇は、労使協定の有無に関わらず、1時間単位で与えることはできない。
4. 治療と仕事の両立支援に際しては、仕事の繁忙等を理由に必要な就業上の措置や配慮を行わないことがあってはならない。

第 21 回対策「みんな合☆総仕上げ模試」

問 35 ロジャーズの来談者中心アプローチにおいて、クライアントが変容するために必要なカウンセラーとクライアントの関係に関する次の記述のうち、**最も不適切なもの**はどれか。

1. カウンセラーとクライアントが心理的なコンタクトを持つ。
2. カウンセラーとクライアントは、互いに自己一致の状態にいる。
3. カウンセラーは、クライアントに対して無条件の肯定的配慮を持つ。
4. カウンセラーは、無条件の肯定的配慮や、共感的理解の状態にいることをクライアントに伝える。

問 36 構成的グループ・エンカウンターに関する次の記述のうち、**最も不適切なもの**はどれか。

1. 構成的グループ・エンカウンターは、國分康孝が創始した。
2. インストラクションでは、リーダー自身がデモンストレーションを行うこともある。
3. メンバーがエクササイズを介して自己開示を行う。
4. シェアリングにおいては、リーダーはメンバーの自己開示の内容の解釈や分析を行う。

第 21 回対策「みんな☆総仕上げ模試」

問 37 ジョブ・カード制度に関する次の記述のうち、**最も不適切なもの**はどれか。

1. ジョブ・カードの活用により、キャリアの振り返りやキャリア・プランの検討をきめ細かく行うことができる。
2. 職業能力を見える化することができ、求職活動時や訓練受講時等に職業能力証明のツールとして活用できる。
3. 職業能力証明シートでは、免許・資格、学習歴・訓練歴、訓練成果の評価、職場での仕事振りの評価に関する職業能力証明の情報を記載する。
4. キャリア・プランシートは、正社員経歴のほか、雇用形態にかかわらず、アルバイト、期間雇用、雇用型訓練等の経歴の棚卸しを記載する仕様となっている。

問 38 キャリアコンサルティングの6分野に関する次の記述のうち、**最も適切なもの**はどれか。

1. 職業興味や価値観等を明確にしたり、自身の職業能力の確認を支援するのは、「仕事理解」である。
2. 選択や意思決定の前に、職場体験などを経験することを支援するのは、「方策の実行」である。
3. 職業の種類や仕事の内容、入職経路に関する理解を支援するのは、「仕事への適応」である。
4. 中長期的目標や短期的目標を決定することを支援するのは、「意思決定」である。

第 21 回対策「みんな☆総仕上げ模試」

問 39 相談場面の設定に関する次の記述のうち、**最も不適切なもの**はどれか。

1. どのようなクライアントであっても、受容的な態度でクライアントとの間に親和関係をつくることが大切である。
2. クライアントとの心理的な親和関係を確立するためには、カウンセラー自身の話し方、表情、態度、姿勢などに留意する必要がある。
3. クライアントに考えさせ、気づかせ、主体性・自主性を持たせるようにし、最終的な決定はカウンセラーが行う。
4. カウンセラーは、言語的な情報のみならず、クライアントが発する非言語的な情報にも留意してカウンセリングを展開する。

問 40 職業レディネス・テスト(VRT)に関する次の記述のうち、**最も不適切なもの**はどれか。

1. 対象者は中学生、高校生が中心で、場合によっては大学生でも可である。
2. 採点も含め、約1時間で実施することができる。
3. 職業興味を測定する A 検査と、基礎的志向性を測定する B 検査の2つの検査から構成されている。
4. 測定できる基礎的志向性には、対情報関係志向、対人関係志向、対物関係志向の3つの方向性がある。

第 21 回対策「みんな☆総仕上げ模試」

問 41 アセスメントの留意点に関する次の記述のうち、**最も不適切なもの**はどれか。

1. 意識的、無意識的に甘く判断しがちになる、いわゆる寛大化傾向になることを避ける。
2. 一部の特徴や印象で全体を判断してしまう、いわゆる中心化傾向に惑わされないようにする。
3. ある特徴があるのだから、この特徴もあるはずであるとする、いわゆる論理的誤差に陥らないようにする。
4. 結果の解釈は対象者の1つの側面を表しているにすぎないため、拡大解釈をしないこと。

問 42 仕事理解の支援のための情報源に関する次の記述のうち、**最も適切なもの**はどれか。

1. ハローワーク・インターネットサービスには、約 500 の職業について、仕事の概要、入職経路、労働条件のほか、仕事をするのに必要なスキル・知識などが掲載されている。
2. 厚生労働省編職業分類は、職務の類似性、求人・求職の取扱件数、社会的な需給などに基づいて体系的に分類したものである。
3. 日本標準職業分類は、職業安定法に基づき、労働力需給調整機関において使用されるべきものとして、職業安定局長が作成している。
4. 職業情報提供サイト(日本版 O-NET:愛称 jobtag)では、職場改善に積極的な企業の時間外労働時間や有給休暇取得率、平均年齢などの職場情報を検索・比較することができる。

第 21 回対策「みんな☆総仕上げ模試」

問 43 意思決定のプロセスに関する次の記述のうち、**最も不適切なもの**はどれか。

1. 選択肢を並べ、吟味し、その中から一つを選び、選択を実行するための契約を結ぶというプロセスをとる。
2. 選択肢を比較する場合には、メリット、デメリットや予想される結果を並べた「比較評価表」を作って検討するのもよい。
3. このプロセスにおいて、新たな情報の収集や活用が必要になった場合でも、プロセス通りに進行するため、躊躇せずに意思決定のプロセスをそのまま進行する。
4. 意思決定のプロセスにおいて、一つを選ぶことは、ほかを捨てることでもある。

問 44 方策の実行の支援に関する次の記述のうち、**最も不適切なもの**はどれか。

1. カウンセラーは、クライアントが目標を立て、学習できるような状況をつくり出すことを援助する。
2. 観察学習(モデリング)におけるモデルは、実在のモデルのみが対象となる。
3. 学習には、クライアントがスキルを開発し、習慣のパターンを変更し、動機づけ、置かれた状況を認識してそれに適応することを含む。
4. カウンセラーが治すのではなく、クライアントが不適切な行動や習慣に気づき、修正し、適切な行動に置き換えることを支援する。

第 21 回対策「みんな☆総仕上げ模試」

問 45 クライアントの意欲を高める学習方策に関する次の記述のうち、**最も不適切なもの**はどれか。

1. 達成が困難な、サブターゲットを立てる。
2. クライアントの努力をほめ、勇気づける。
3. クライアントの努力に報い、言語的、心理的支持を与える。
4. クライアントと行動計画を立て、それに取り掛かるのを支援する。

問 46 相談過程の総括に関する次の記述のうち、**最も適切なもの**はどれか。

1. 目標に照らして到達したため、クライアントの同意を得ること無くカウンセリングを終了した。
2. 評価の中心は、クライアントの成長であり、それはクライアントの感情によるものではなく、実際に行動が変わったという事実に焦点を置く。
3. 目標が完全に達成されなかった場合には、完全に達成されるまでカウンセリングを続ける。
4. クライアントがカウンセリングに依存することを防ぐため、カウンセリングの終了後には、クライアントのフォローを行うことはない。

第 21 回対策「みんな☆総仕上げ模試」

問 47 ネットワークの認識及び形成に関する次の記述のうち、**最も適切なもの**はどれか。

1. 必要な支援が自らの専門性を超える場合に、信頼できる別の専門家に支援を依頼することを、コンサルティングという。
2. 自らの専門性を超える内容について、他の専門家に意見を求め、情報や知識を提供してもらうことを、リファーという。
3. クライアントに代わり、クライアントの代弁者となって問題解決することを、アドボカシーという。
4. 複数の専門家が役割を分担して、それぞれが独立して問題解決に取り組むことを、コラボレーションという。

問 48 「キャリアコンサルタントの実践力強化に関する調査研究事業 報告書」(キャリアコンサルティング協議会、令和 3 年)に関する次の記述のうち、**最も不適切なもの**はどれか。

1. スーパービジョンは、スーパーバイザーの発達と自律を第一義としている。
2. スーパービジョンの形態には、大きく分けて個人スーパービジョンとグループ・スーパービジョンがある。
3. スーパーバイザーは、契約面談において、評価を含むスーパービジョン関係、期待されることと目標、評価の方法、秘密保持等についてスーパーバイザーに明確に知らせる必要がある。
4. スーパービジョンは、クライアントへの効果的な援助をめざして、見立てや援助方法の修正、今後の援助計画の見直し等について、担当者および支援の関係者が集まり行われる。

第 21 回対策「みんな☆総仕上げ模試」

問 49 キャリアコンサルタントの倫理・姿勢に関する次の記述のうち、**適切なものの組み合わせ**はどれか。

- A. キャリアコンサルティングを行うにあたり、自己の専門性の範囲を自覚し、その範囲を大きく超えるものであっても、自らの成長のため、積極的に業務の依頼を引き受けるべきである。
- B. キャリアコンサルタントは、キャリアコンサルティングを実施するにあたり、相談者の自己決定権を尊重しなければならない。
- C. キャリアコンサルタントは、キャリアコンサルティングを通じて、いかなる場合も、職務上知り得た事実、資料、情報について守秘義務を負う。
- D. キャリアコンサルタントは、自己の身分や業績を過大に誇示したり、他のキャリアコンサルタントまたは関係する個人・団体を誹謗・中傷してはならない。

- 1. A と C
- 2. B と C
- 3. B と D
- 4. C と D

問 50 「キャリアコンサルタントの継続的な学びの促進に関する報告書」(厚生労働省、平成 31 年)に関する次の記述のうち、**最も不適切なものはどれか**。

- 1. キャリアコンサルタントに求められる学習には、「深化」と「アップデート」があり、学ぶべき対象には、「共通領域」と「専門領域」がある。
- 2. 個別面談を適切に実施するスキルは、キャリアコンサルタントとしてのコアスキルに位置づけられる。
- 3. 倫理に関する確実な理解と内在化、それを各場面に適切に当てはめて考え、行動できる力を身に付けることが必要である。
- 4. 雇用・労働、社会保険、教育等の諸分野の法令・制度に係る正しい理解は、専門性を発揮するためのものであるため、すべてのキャリアコンサルタントが学ぶべき共通領域とはいえない。